Ⅱ　学習到達状況調査結果の分析・考察

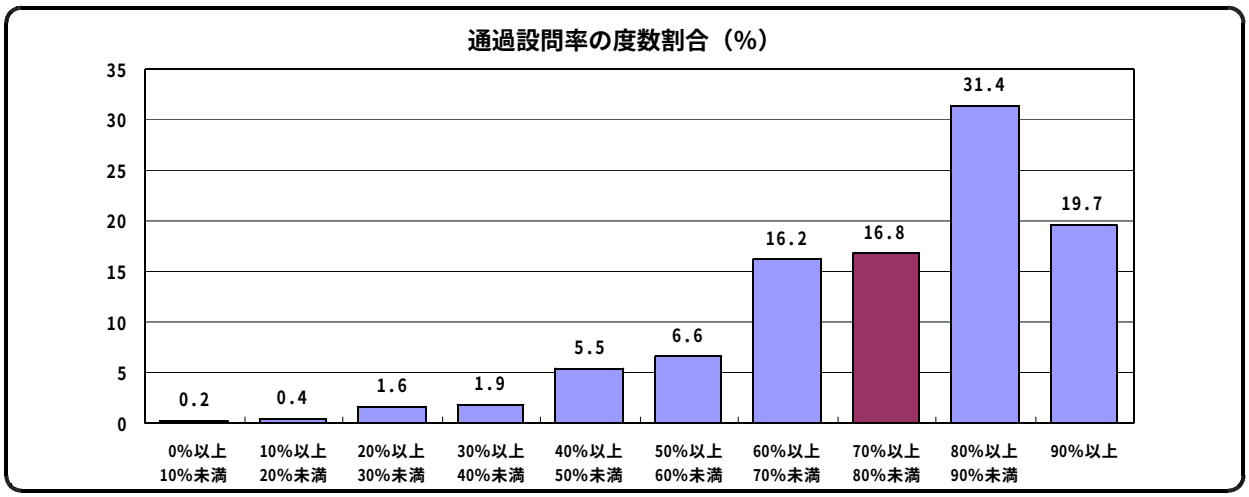
１　国　　語

（１）調査結果の概要

	受検者数（人）	平均通過率（%）	通過設問率が60%以上の生徒（%）
国　語	2105	75.5	84.1

○　おおむね良好
・話し合いの話題や方向をとらえて的確に聞くこと。
・目的や意図に応じて簡潔にまとめて書くこと。
・文学的文章や説明的文章の内容を的確に読むこと。
・漢字を正しく読むこと。

○　不十分又はやや不十分
・テーマに沿って自分の意見を書くこと。
・文脈に即して漢字を正しく書くこと。
・慣用句，敬語，心情を表す語句などの語句に関する知識・理解。



国語では，平均通過率が75.5%と高く，これを度数割合のグラフでみれば，通過設問率が60%以上の生徒が，84.1%いる。全体の形が平均通過率の含まれる度数域よりも右よりの山の形であることから，国語で求められる力はおおむね定着していると考えられる。

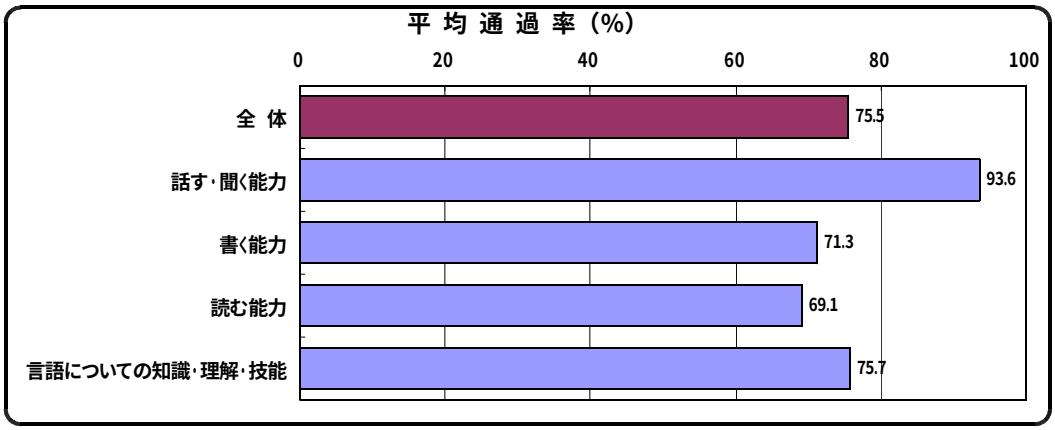
（２）学力観点別状況の分析・考察・指導のポイント

「関心・意欲・態度」

学習実態調査をみると，国語が好きかという問いに対して，肯定群の割合は，56.3%である。これは国の調査を14.2ポイント上回っており，教科の役立ち度に関する問いにおいても肯定群の割合が高い。これらの調査結果から考えれば，国語に対する関心・意欲・態度はおおむね良好であると言えよう。しかし，生活に密着した教科であることを考えると，好きかという問いに対する肯定群の割合を一層高めることが望ましい。

具体的な国語の学習についての設問に対しての回答をみると，①「工夫して話すこと」や④「伝えたいことをはっきりさせて書くこと」の肯定群の割合は低い。自分の意見や考えなどを表現する活動に対してはやや消極的な生徒が多いことがわかる。また，⑥「情報を得るために読むこと」の肯定群の割合は37.0%と最も低く，情報を得るための読書は定着していないことがうかがえる。

自分の意見や考えを伝え合う活動では，達成感や成就感を感じることができる経験の積み重ねがその意欲を高める契機になると考えられる。また，達成感や成就感を得るためには，伝えたい内容や相手，場面を想定した具体的な課題の設定が欠かせない。



「話す・聞く能力」

話し合いの話題を正確に聞き取り，その流れに沿って発言内容を把握することはできている。更に様々な意見を聞き分け，自分の考えを深めていけるようにするためには，自分の中で，他者の意見や考えを再構成できるようなメモの書き方を指導する必要がある。

「話す・聞く能力」については，ペーパーテストによって評価することは難しい面がある。今回は「話す能力」についての調査ができていないこともあり，この結果だけから「話す・聞く能力」全般を安易に判断することはできない。

「書く能力」

文章中の言葉を用いながら，内容を簡単にまとめることはおおむねできているが，その表現には不十分な点が見受けられる。また，伝えたい事実や事柄，及び自分の考えを明確にして書く力が弱い。ある程度の長さのある文章を書くことに慣れていない様子がうかがわれる。

「適切な材料を選ぶ」「適切な構成を工夫する」「根拠を明らかにして論理の展開を工夫する」などのねらいに沿った学習指導とともに，限られた時間内に自分の考えなどをまとめて書くことに慣れるように指導することも大切である。

「読む能力」

文学的文章や説明的文章の内容を，その構成や展開に沿って的確に読みとることはおおむねできている。今後さらに，様々な文章に対する興味・関心を一層高めたり，心情語の学習と流れを押さえたりする学習活動が必要である。

学習態度に関する項目問11③「進んで読書に親しむこと」や⑥「情報を得るために読むこと」において，肯定者の割合がやや低いことからも，読書に対する意欲を一層高めたい。目的や意図に応じて読書し，生活に役立て，自己を豊かにしようとする態度を育成する指導を重視し，その工夫改善を行いたい。その際には，広がりつつある朝読書の活動や他教科などと連携を図ることも考えられよう。

「言語に関する知識・理解・技能」

漢字の読みとりはおおむね良好である。しかし，漢字の書き，慣用句，敬語などについての知識・理解はやや不十分である。ドリル学習や小テストでの学習だけにとどまらず，学んだ言葉を日常生活に生かすことのできるように学習活動などを見直すことが必要である。

文法の知識・理解についても表面的，形式的な理解に終わらせずに，日常生活においての自分の考えを効果的に表現したり，場をわきまえた話し方に役立てたりすることのできるように指導していくことが大切である。

（３）設問別の分析・考察・指導のポイント

問題番号 大問	問題番号 小問	出題の内容	評価の観点 話･聞能力	評価の観点 書く能力	評価の観点 読む能力	評価の観点 言語事項	通過率(%)	◇＝出題のねらい，△▲＝分析，☆＝指導のポイント
1	(1)	聞き取り	○				92.1	◇話し合いの話題や方向をとらえて的確に聞いている。 △話し合いの話題を正確に聞き取り，把握することはできている。キーセンテンスや司会者のせりふに注意しながら聞き取っていると考えられる。 ☆話し合いについての学習では，積極的に参加し話題に沿って自分の意見や考えを述べるだけでなく，互いの立場や意見の共通点や相違点を聞き分ける力を育てることが大切である。そのため，実際の話し合い活動では，司会者としての経験を多くの生徒に積ませたいものである。
	(2)		○				90.8	◇話し合いの話題や方向をとらえて的確に聞き，またそれぞれの発言を注意して聞いている。 △▲話し合いの流れに沿って，それぞれの発言内容をとらえる力はおおむね良好である。ただし，(3)では通過率が97.8%と高いが，二つとも正解を選ぶことのできた生徒は76.8%と20%以上も低下する。メモによる記録が不十分であることがその要因の一つであろうと推測される。 ☆様々な意見を聞き分け，自分の考えを深めていくためには，メモをとることが大切である。自分の中で，他者の意見やを考えを再構成できるようにメモの書き方を指導する必要がある。 ☆国語科の授業だけでなく，学校生活の様々な場面で「話すこと・聞くこと」の指導を行っていきたい。
	(3)						97.8	
2	(1)	漢字の読み書き				○	90.0	◇文脈に即して漢字を正しく読み書きしている。 △漢字の読みについては，いずれも通過率が90%を超えており，正しい読み方がよく身に付いていると言える。 ▲漢字の書きについては，読みに比べると通過率が30～40%も低下しており，漢字は読めるが書けないという状況が明らかになっている。平素は漢字をあまり使っていないのではないかと考えられる。また(6)「ハッテン」では誤答率が27.1%と高いことから，正しい字形があまり定着していないことが分かる。学年別漢字配当表における高学年初出の漢字については，意味・用法などとともに字形の指導も重視する必要がある。 ☆漢字については，ドリルや小テストなどにより繰り返し定着を図ることが大切である。しかし，単純な繰り返し学習だけで，社会生活において漢字を活用できる力を育てることはなかなか難しい。漢字指導は語彙指導であることを確認した上で，字体，字形，音訓，意味や用例などをあわせて指導し，社会生活で実際に使いこなせる力を育てたい。 ☆「書くこと」などの指導とも関連を図って指導する必要がある。
	(2)						97.9	
	(3)						94.3	
	(4)						67.2	
	(5)						68.5	
	(6)						56.9	
3	(1)	同音異義語				○	85.2	◇文脈に即して同音異義語を正しく使い分けている。 △同音異義語については，２問とも通過率が80%を超えており，おおむね理解しているようである。 ☆日本語では同音の言葉が多いという特徴を押さえて一語一語の意味を辞書などで確認する学習習慣を育てる。その上で前後の文脈に沿って使い分けることができるように，実際の用例を多く挙げることなどにより指導することを心掛けたい。
	(2)						83.0	

問題番号 大問	問題番号 小問	出題の内容	評価の観点 話・聞能力	評価の観点 書く能力	評価の観点 読む能力	評価の観点 言語事項	通過率(%)	◇＝出題のねらい，△▲＝分析，☆＝指導のポイント
4		慣用句の知識				○	65.1	◇語句の意味や用法を理解し，文脈の中で正しく使っている。 ▲日常生活の中で，慣用句があまり使用されていないことをうかがわせる通過率である。 ☆伝統的な言い回しを理解して，口頭発表や作文などにおいて創造的な表現を工夫することなどを理解させることが大切である。 ☆慣用句だけでなく，日本の言語文化であることわざや故事成語などの伝統的な言い回しについても，その表現に親しみ，日常生活に生かすように働きかけたい。
5		文法の知識・理解				○	85.2	◇相手や場に応じて敬語を適切に使っている。 △相手や場に応じて敬語を適切に使うべきであることは理解しているようである。 ▲二つとも正解を選ぶことのできた生徒は，47.4%と半減に近い状態である。つまり，約半数の生徒は敬語を使うことに慣れていないために，不正確な理解でとどまっているということが推し量れる。 ☆小学校で学習した内容を日常生活において，経験的，継続的に復習し，自分のものとするように指導していく必要がある。 ☆特に「謙譲語」については，大人であっても誤った使用例が多く見受けられることから，「謙譲」という語の意味をまず定着させたい。その上で，実際の場での対話や役割演技などを用いて，適切な敬語を用いるという言語経験を十分に積ませる必要がある。
6		文法の知識・理解				○	82.9	◇文の組み立てを理解している。 △補助の関係については，よく理解しているようである。 ▲ウを選んだ生徒が8.0%にのぼっている。これは，生徒にとって修飾・被修飾の関係がつかみにくいものであることを表している。 ☆「補助の関係」という文法用語の指導だけに終わることなく，関連学習として形式（補助）用言の存在やその表記などにも触れたい。文法は国語科における学習においてのみ存在するものではなく，一人一人の言語生活に密着したものである。それを正確に運用することにより，より望ましいコミュニケーションにつながることを理解させることが大切である。
7	(1)	文法の知識・理解				○	49.4	◇文の成分の順序や，文の組み立てなどを理解している。 ▲文の組み立ての基礎である「主語」「述語」を正確に理解している生徒は約半数であるという結果となった。出題したのは倒置法の表現であり，若干のわかりにくさはあるが，「主語」「述語」の役割を理解していれば，易しい問題のはずである。 (1)では，24.1%の生徒が「ウ　瀬戸内海の」を主語と答えている。また(2)では，32.0%の生徒が「エ　夕焼けは」を述語と答えている。これらのことから文法の理解が，その形式面にとどまっており，正確な理解までにはなっていないことがわかる。 ☆文法の学習については，取り立て指導において形式面から指導すると表面的な理解は促しやすいが，それだけで終わると深くは定着しにくい。 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの領域と関連させ，談話や文章の表現・理解に役立てることにより，文法についても理解を深められるはずである。
	(2)						58.9	

問題番号 大問	問題番号 小問	出題の内容	評価の観点 話・聞能力	評価の観点 書く能力	評価の観点 読む能力	評価の観点 言語事項	通過率(%)	◇＝出題のねらい，△▲＝分析，☆＝指導のポイント
8	(1)	文学的文章			○		61.7	◇文章の展開をとらえ，内容の理解に役立てている。 △▲61.7%の生徒は，「僕」と先生の会話の内容から，物語の展開を正しくとらえ，「僕」の心情を理解することができている。しかし，「ア　なにも・・・かわいそう」を正解とした生徒が19.5%も存在している。この場面では，「こうすけ」の心情を推し量る余裕のない「僕」が描かれていることから，叙述に即した読みができていないと考えられる。 ☆文学的文章においては，その作品における叙述によって呼び起こされる具体的なイメージを創造することが基本である。その上で，人間としての生き方や社会の在り方について自分なりの考えを深めていく学習活動を構想したい。
	(2)				○		71.6	◇比喩表現を的確にとらえ，理解している。 △この場面の比喩表現については，おおむね理解しているようである。 ▲無答率が13.8%と高いことから「比喩（たとえの表現）」という言葉そのものを理解していない生徒の存在がうかがわれる。 ☆小説などの文学的文章の学習では，読者に対してどのような効果をもたらしている表現技巧かなどを考えさせる指導を行いたい。また慣用句やことわざとの関連指導も考えられる。
	(3)			○	○		91.6	◇(読むこと)文章の展開をとらえ，内容を理解している。 △ここでは，「僕」の思いがけない行動の意味をよくとらえることができている。 ☆文学的文章の読解では，登場人物の言動に注目することが基本である。 ◇(書くこと)目的や意図に応じて簡単にまとめている。 △文章中の言葉を用いながら，内容を簡単にまとめることはおおむねできている。 ▲「僕」がどこに向かったのかを答えていない生徒が15.8%いる。日常生活においても言葉足らずの表現をしているのではないかと危惧される。 ☆「書くこと」では，読み手の立場になって表現することが重要である。そのため，できるだけ実際に即した場面を想定して指導するなどの工夫を心掛けたい。
	(4)				○		83.6	◇文脈における語句の意味を正確にとらえ，理解している。 △文脈における語句の意味を正確にとらえ，登場人物の心情の理解に役立てることがおおむねできている。 ☆このような心情の変化を流れとしてとらえる読みの指導も必要である。
	(5)				○		65.2	◇文章の展開をとらえ，内容を理解している。 △主人公である「僕」の心情の変化をおおむねとらえられている。 ▲選択肢に用いられている，心情を示す言葉が十分には理解できていないのではないかと考えられる。例えば，ウを選んだ21.7%の生徒は「不信」と「不審」をとり違えている可能性が高い。 ☆人間の複雑かつ繊細な心情を表現するために，古来，多くの言葉や言い回しが創造され，生活の中で様々に用いられている。語彙指導の一環として場面に応じた心情語の指導をしたい。

問題番号 大問	問題番号 小問	出題の内容	評価の観点 話・聞能力	評価の観点 書く能力	評価の観点 読む能力	評価の観点 言語事項	通過率(%)	◇＝出題のねらい，△▲＝分析，☆＝指導のポイント
9	(1)	説明的文章			○		44.0	◇文脈における語句の意味を正確にとらえ，理解している。 ▲指示語の前の文章はごく短いことから考えると，通過率がかなり低いと言えよう。 ☆指示語が指し示すと考えられる部分を指示語に代入して文脈が通じることを確かめるなどの技能を身に付けることを指導する。
	(2)				○		80.6	◇事実と意見を読み分け，文章の構成や展開を正確にとらえ，内容を理解している。 △筆者の意見をおおむねとらえることができていると考えられる。 ☆段落ごとに内容をとらえたり，段落相互の関係を正しく押さえたりするという読みの基本的な技能を身に付けさせることを指導する。
	(3)				○		73.0	◇文脈における語句の意味を正確にとらえ，理解している。 △一般的な意味だけではなく，この文脈における語句の意味をおおむね正確にとらえている。 ▲無答率は低いが，誤答が21.3%にのぼることが気になる。「初めて優勝・・・応援する地元の様子」にふさわしい意味をとらえられていないことになる。 ☆語句の意味は，国語辞典に掲載されている一般的な意味だけでも様々に存在する場合が多い。また，同義の語句であっても，筆者の意図などによってニュアンスの違いがあることも多い。さらに本文中に出てくるような広まりつつある誤用例も存在している。国語辞典の利用を基本としつつ，前後の文脈に沿って語句の意味をとらえることを指導することが必要である。
	(4)			○	○		50.9	◇（読むこと）文章を読んで，そのテーマについて考え，自分の意見を持てるようになる。 ◇（書くこと）伝えたい事実や事柄，及び自分の考えを明確にしている。 ▲無答率が21.7%と際立って高い。テーマについての自分なりの意見を書きかけてはいるが，不十分なままに終わっている生徒が多い。書くことに慣れていない様子がうかがわれる。 また，「具体例をあげて説明すること」という条件を満たさなかった解答が31.0%あった。適切な根拠や具体例を用いた説得力のある文章の書き方についての学習が不足していると考えられる。 ☆あることに対しての自分の気付き，意見，感情などを書くことやある事実を正確に記録することなどを日ごろの学習活動にしばしば取り入れ，書くことに対する抵抗感を少なくすることが大切である。その際には，ただ繰り返し書かせるだけではなく，相手意識や目的意識を持たせたり書くことの有用感を持たせたりすることを考慮したい。限られた時間内で文章をまとめる経験を重ねることも必要である。